

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394200048		
法人名	株式会社e-smile		
事業所名	グループホームいこいの家		
所在地	愛知県大府市吉田町一丁目2番地		
自己評価作成日	令和4年9月28日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2394200048-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

＜ゆっくり、いっしょに、さいごまで。他人以上で身内未満。＞を基本理念に、出来る限り重度化を防ぎ、その人らしさを維持して行くにも閉じこもらせない施設運営を心がけています。当施設では畑があり野菜を収穫できるため、食べることや実際に収穫することでも四季を感じて頂けるように工夫しております。コロナ禍が続く状況で施設の情報を発信するためにも、SNSを使用し外部や家族様に情報発信しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの特徴として、ホームの建物が古民家を改装していることであり、多くの利用者にとって懐かしさを感じる雰囲気がつくられている。毎日の生活の中で利用者が広いリビングでゆったりとした気分で過ごしており、利用者の落ち着いた生活にもつながっている。感染症問題が続いていることで、利用者の外出の機会が限られた範囲となっているが、日常的にホームの近隣を散歩する機会を作っており、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような配慮が行われている。当ホームは、1ユニットのホームである利点も活かしながら、職員間で利用者一人ひとりに合わせた支援の検討が行われている。また、基本理念にも掲げているように、ホームでは看取り支援も考えており、職員間で連携した支援を行い、協力医療機関との連携も深めながら、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「ゆっくり いっしょに さいごまで 他人以上で身内未満」を理念とし、職員会議や職員との面談等を通じて実践につなげている。	ホームの基本理念を職員の支援の基本に考えており、日常の支援を通じて職員間で理念を意識する取り組みが行われている。ホームのパンフレットにも理念の記載が行われており、利用者が住み慣れたホームで最期まで過ごすことができるような支援を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍により交流の機会が減少したが、近所や地域の方から介護や施設入居の相談を受けることもあり、日常では挨拶を交わしている。	感染症問題が続いていることもあり、地域の方との交流が困難になっているが、日常的にホームの近隣を散歩する機会をつくり、近隣の方と挨拶を交わす等の交流が行われている。また、ボランティアの方については、可能な範囲で受け入れが行われている段階でもある。	地域の方との交流の機会がつけられているが、限られた範囲となっていることもあるため、今後の状況をみながら、交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	相談を受けた際は介護保険制度の説明や認知症の方の行動や発言を例として伝え、悩みを解消できるように努め実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者様や家族様にアンケートを実施し、2ヶ月毎に運営推進会議を開き近況報告や情報収集を実施。今後の指針に活かした。	会議については、書面による実施が続いており、会議の関係者には書面を通じてホームの運営状況の報告が行われている。また、会議の書面を家族にも送付しており、家族にも定期的にホームの運営状況を報告し、ホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。	会議について書面による実施が続いていることもあるため、今後の状況をみながら、会議の再開につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	入居者がコロナ感染した際にはより多くのやりとりを実施した。不足した物品を補填して頂く等の対応をしてくださり、協力関係が築けている。	広域連合で行われている研修会等にホームからも参加する機会をつくり、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、市内の医療、介護事業所と連携したネットワークにホームからも参加しており、市の福祉施策等への協力が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設から出ていこうとされる入居者がいらっしやるが、不穏時や玄関に行かれる際は声掛けや散歩をして気分転換を図り対応している。夜間は防犯のため施錠している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者が外に出ることができるため、職員間で利用者を見守る等の対応が行われている。また、運営推進会議を通じた身体拘束に関する定期的な検討や職員研修の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修の実施、チェックリストを用いて自分たちが行っているケアを振り返るようにしている。職員会議等で入居者の変化を話し合い、虐待や身体拘束にあたるかどうかを検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度や酒類を学ぶため研修を実施。職員会議等で制度の紹介や説明をし、理解を深める。相談等あれば対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に十分な説明を行い、双方で同じ認識を持てるように確認しながら納得して頂き、理解して頂いた上、契約を交わしている。疑問等があれば都度尋ねて頂けるように話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍により面会ができない時期もあり、SNSをスタートし情報発信することで笑顔が見えて安心した、元気な姿を確認できて良かったとお声を頂いている。	現状、家族との交流に限られた範囲となっているが、例年はホームの行事を通じた家族との交流の機会がつけられている。運営法人でアンケートを実施する等、家族からの要望等を把握する取り組みが行われている。毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議、または随時の職員会議を行い、業務改善、ケアの向上に努めている。会議では改善案や前回の振り返りを行うことで個々の職員の意見を取り入れるよう努めている。	毎月の職員会議や日常的な情報交換等を通じて、管理者が把握した職員からの意見等を運営法人にも報告し、運営につなげる取り組みが行われている。管理者による職員面談の機会をつくり、職員一人ひとりの把握につなげる取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員共済保険に加入し全員に会社負担で共済掛け金を支払い、職場環境の改善に取り組む。職員家族の慶弔にも役立っている。都度職員と話し、意見を吸い上げ前向きに努力し続けられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍によりオンラインの研修に参加することで知識を深める。研修後は現状のケアを振り返り、良い悪いを話し合い、改善できることや実践することで勉強したことを活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	SNSを通じた他施設の行事やレクを参考にしたり、計画の内容を伺ったりすることで知識が増えている。自拠点のことも発信し、互いの困難になること等を話し合うことができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	生活歴、趣味等アセスメントをとり、本人と家族の意見や意向を伺う。不安な気持ちにならないよう声かけに注意し、他の利用者との人間関係に配慮しながら、環境に慣れて頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族のとまどい、悩み、不安や希望を聞き取りし安心して穏やかに過ごせる施設と判断して頂けるよう努めている。随時電話報告や訪問時、毎月のお便りで様子を報告し、安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族から現状の心配事や困り事を聞き取り課題を把握。他サービスを提案し選択肢を増やすことで、その人らしく生活できるように提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者個々の生き立ち、その人らしさを尊重しつつ生活歴等を全ての職員が把握したうえで利用者を理解し学び共に毎日の生活を楽しくて頂ける家族的な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と利用者との安心した関係作りの支援が出来るよう、双方の意見をよく聞き、双方が良い関係でいられるよう施設としてできることを提案している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	アルバムや自宅で使っていたもの(ダンス、布団、時計、装飾等身近にあったもの)を自宅に持参して頂いたり、暑中見舞いや年賀状を書いて頂くことで近況報告や元気であることを伝え、関係性が保てるよう努めている。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には携帯電話や手紙等を通じて交流を継続している方もいる。また、家族との外出についても、身内の方の葬儀に出かける等、感染症対策をお願いしながら外出の機会をつくる取り組みが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲間意識が持てるよう共同作業やレクリエーション等で職員が間に入りながら同じ時間を共有して頂いている。座席や声掛けのタイミングを考慮し実践し良好な関係が保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も円満な関係性が保てるよう、退去前から相談や今後の提案をすることでクレームもなく、ご自宅で使わなくなったものを寄付してくれることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしさ尊重できるよう、家族や本人から生活歴の情報をもとに、利用者本位の生活が送れるようにしている。本人の希望に出来るだけ沿えるよう職員全員が情報共有し、日々のケアに努めている。	1ユニットのホームでもあることで、職員全員で利用者の意向等に関する把握が行われている。職員間で専用のアプリを活用した情報共有の取り組みが行われており、利用者や家族からの意向やカンファレンスの結果等を共有し、日常の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時生活歴等を家族や本人、担当のケアマネージャーから伺い把握。日々必要な情報は日報や連絡ノート、職員会議、業務引継ぎ時等でケアの統一を図る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	記録に一日の行動が把握できるよう記載。毎日バイタル測定を行い体調不良の早期発見に努めている。普段と様子が違う場合は家族と連絡をとり連携を図る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の希望や意見を十分に聞き入れ、月一度の職員会議や随時職員同士で話し合い、計画作成を実施。モニタリングでは本人のできることやできないことを見極めプランに落とし込んでいく。	介護計画については、利用者の状態変化等にも合わせて、6か月～1年で見直すようにしている。また、日常的にもチェック表を活用した支援内容の確認を行いながら利用者の変化等を把握し、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケア記録に気づきと変化を記入するように工夫し、全職員に伝わるよう日々の申し送りや申し送りシートを活用することで情報共有。できることやできないことを見極め介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族の状況に応じ、通院介助や買い物代行を実施。2ヶ月に一度の理美容のサービスも継続。コロナ禍により遠方の家族とはオンライン面会を実施やSNSを通じて日々の様子を報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍により地域との交流が厳しいが、民生委員とのやりとりや地域の情報誌を利用者にお伝えすることで地域の話をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所以前の内科、歯科のかかりつけ医と医療連携を図り、家族の受診や必要時の往診も出来る関係を継続。そうでない入居者の方は施設の提携医院、歯科医院での受診支援を実施。	協力医との医療面での連携が行われており、現状、全員の方が協力医をかかりつけ医としている。受診については、家族による対応としているが、状況等にも合わせて職員による支援も行われている。また、協力医療機関の看護師との連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師の職員配置が現時点では不在ですが、日々の観察によりいち早く対応できるように家族と連絡を取り合い、近在のかかりつけ医の往診、受診も適時受けることで対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の紹介状をもとに、入院先の医師、ワーカー等と話し合い、退院の目処や退院後の相談に努めている。家族の疑問点等を施設からワーカー等に相談することで、円滑に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者の体調変化に伴い家族、主治医と面談しケアの方針を決めている。施設として出来る範囲を十分に説明し、主治医と共に変化を共有し対応している。必要に応じて近在の訪問看護事業所とも連携がとれるため、希望に沿えるように努めている。	身体状態の重い方も生活を継続する支援が行われており、利用者の中にはホームで最期を迎える方もいる。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを行い、協力医療機関の医師や看護師とも連携し、意向等に合わせた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルを普段から見るところに設置。医療連携機関とも夜間連絡を取れる体制にしている。対応の仕方や救急搬送の手順、主治医への確認等を慌てずにできるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の区長、民生委員の方々に現状を知って頂き協力体制を図る。コロナ禍により今は実施できていないが、近在の住民の協力を得て避難訓練も実施もしてきた。	年2回の避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行われている。通報装置については、専門業者とも連携したメンテナンスが行われている。水や食料等の備蓄品の確保が行われている他、災害対策に関する近隣の方との交流も行われている。	感染症問題が続いていることで、近隣の方との交流が困難な状況が続いている。今後の状況もみながら、近隣の方との災害対策に関する交流が再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者としての尊敬の気持ちを忘れず、言葉かけ等に十分注意をするよう会議や日々の申し送り時に周知。排泄時、入浴時等のプライバシーの尊重も図る。入室時もノックと返事を待ってから入室している。	職員指針をはじめ、職員による利用者への対応や言葉遣い等については、管理者からも注意喚起等が行われている。虐待に関するチェックリストを用いた職員の振り返りの機会をつくりながら、職員間での意識向上につなげる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の気持ちを大切にできるようにどうしたいかがわからない場合は提案をし、本人の意思を尊重している。押しつけない支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	意向に沿えるよう毎日の会話の中から希望をくみ取り支援している。レクリエーションも強要はせず個別に対応できるようにし、日々楽しく過ごして頂けるよう支援に努め、会議等で話し合いをする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類に関しては出来るだけ本人に選んで頂けるように、季節や場合によりどういったものがいいか提案したり伺い、希望に沿えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の要望を伺い、希望に沿えるように手作りの日を設定、できることを一緒にして頂くことでも楽しみを持ってるように努めている。テーブル拭き下膳できるよう食器を揃えて頂いている。	食事については、外部の業者も活用しながら提供が行われているが、ご飯と汁物はホームで調理が行われている。ホームで食事作りを行う機会もつくり、利用者もできることに参加している。また、職員も利用者と同じ食事を行う取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体調に合わせて食事量や食事形態の調整を行う。咀嚼力に応じた食事、自身で召し上がられるようにスプーン等設置、食べやすいように食器の配置替えを行う。水分摂取は時間や体操や入浴後、適宜提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行い本人の能力に応じて介助を実施。歯ブラシ等の除菌や入れ歯の洗浄も実施。歯や入れ歯に異変があればかかりつけの医師等に相談。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	定期的な誘導とは別に、個々の排泄パターンの把握に努めている。失敗が少なくなるようにトイレへの促しや、ご自身で出来る範囲の動作をして頂き排泄の介助を行う。	排泄記録については、利用者の身体状態等にも合わせて残しているが、日常的に職員間で情報交換を行い、一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に、排泄に関する医療面での連携も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然排便ができるよう体操や散歩等の参加を促す。鍼灸師とも連携し個々に合わせた腹部の体操等を提案し実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	週3回入浴日実施し、入浴したい要望があった場合や排泄の失敗があった場合も個別に対応できるようにしている。	利用者が週3回の入浴が行われており、入浴を拒む方も声かけを行いながら、定期的な入浴につなげている。身体状態に合わせた職員2名での入浴が行われている他にも、季節等にも合わせた柚子湯や菖蒲湯等の入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活習慣になっている方、体力の低下が見られる方は、昼食後には自室で休んで頂いている。体調に合わせて声掛けをし、リビングでもゆっくりできるよう足を伸ばして頂く等の工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々に服薬情報を保管し必要に応じて確認。服薬が変更された場合は職員全員に周知。症状の変化等を記録し、往診医と情報共有をし家族や本人に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常生活では個々のできることを家事等役割を持って過ごして頂いている。コロナ禍のため外出は控えているが、要望を伺い浴えるレク(調理やおやつ作り)を実施。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍により外出は人混みがないところを選出し、季節の花を見学。畑の収穫、ドライブ、といった外部とは接触を避ける形で外出し、閉じこもりにならないように努める。	感染症問題が続いていることで、利用者の外出が困難になっているが、日常的に近隣を散歩する機会をつくり、利用者の外出の機会を確保している。また、自動車を活用した外出の取り組みも行われており、季節に合わせた公園等への外出行事が行われている。	感染症の状況もみながら徐々に外出の機会を増やす取り組みが行われており、今後に向けた外出の機会を増やしていく取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍によりお金を使用するへ出かけることがほとんどないが、買い物や外出時にはご自身の手持ち現金を持ち、買い物選びや支払いをして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある場合は電話をして頂いている。手紙を出される方は悩まれる時は文面と一緒に考えたり提案する。携帯電話を所持されている方は夕食後に家族と話され、操作不明時は操作をお伝えし使用できるようにする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室や共有の空間に手作りの作品等を掲示し、季節感を演出。居心地が良いと感じて頂けるようテレビが見える座席の配置替え、レクができる距離間、温度調整に配慮。	建物が古民家を改装したことあり、多くの利用者にとっては馴染みやすい生活環境がつけられている。リビングについても広い空間が確保されており、利用者がゆったりと過ごすことができる生活環境がつけられている。また、利用者の作品の掲示も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	縁側のテーブルやウッドデッキにテーブルや椅子を配置し個々や利用者同士でくつろげる場所を用意。職員が遠くから見守りやたまに話しかけることで不安のないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	希望に合わせ、自身の慣れ親しんだ家具等を持ち込まれ設置される。家族の写真等も飾り安心できるように配慮。安全に配慮した部屋作りの工夫をしている。	居室については、古民家を改装した居室と新たに建て増した居室があり、居室の生活環境が異なっている。利用者や家族の意向等にも合わせた家具類を持ち込んだり、ベッド以外で生活している方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室入り口に表札を設置、トイレお風呂場には解りやすく表示をし、迷うことなく目的地まで行かれ、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		